

○平成29年度 町長と語る会の意見と回答

	意見	回答
ふるさと納税について	町の特産物等を使い、ふるさと納税を盛り上げる考えはあるか。	ふるさと納税の返礼品の高額化による自治体間の競争が過熱化しているため、返礼品の見直し等について国から通知が出ています。本町では、ふるさと納税として寄付金を集める競争には積極的に参加しないで、上三川町をPRする手段のひとつとして活用し、地元特産品の魅力を発信していきたいと考えています。
通学路の安全確保について	小学生の通学路に、路上駐車のあるため、よけて通らなければならず危険である。何か、対策がとれないか。	路側帯内の駐停車方法は、法律で定められており、児童の通行を妨げるような方法での駐停車については、法律に違反する可能性があります。警察に情報を提供し、パトロールの強化及び違反車両発見時の指導を依頼することで、通学路の安全を確保したいと思います。
消防団員の確保について	消防団員の確保について、どのような対策を考えているか。	消防団員の確保については、消防団の魅力アップを図り、新入団員の増加につなげていきたいと考えています。今年度より、登録した店舗にてサービスを受けられる消防団サポート事業を開始し、団員に対するサービスの向上を図るほか、団員の健康増進事業としてレクリエーションを毎年実施しております。今後も、団員の満足度向上に繋がる事業を研究し、導入していく考えです。
災害時の対応について	避難所として小中学校の体育館等が指定されているが、避難所の安全確認や開放、照明の設置や避難者の受け入れ等、どのような方法で行っているのか。	避難所の運営は、施設の安全を確認した上で、夜間は発電機や投光器、冬の寒い時期は毛布等を準備し、町職員が運営にあたります。台風やゲリラ豪雨時などについては、早めに避難勧告等を発令し、被害が発生した場合は、通行止め等の情報をかみたんメールなどでお知らせします。
災害時の情報伝達方法について	災害時の連絡手段として、メール以外の方法はないか。また、防災無線や町内ラジオ、防災スピーカー等を設置する考えはないか。	災害時の連絡手段として、かみたんメールやホームページで情報を配信しています。今後は、フェイスブックやテレビのデータ放送などを活用し、情報を配信していきます。防災行政無線や町専用ラジオ、防災スピーカー等による情報の伝達も考えられますが、様々な角度から検証した結果、設置しない方針となりました。今後も、新たな配信方法も含め調査・研究していきます。
災害発生時の備えについて	備蓄食料の内容と数量、避難者の生活必需品の内容と数量、備蓄している場所、避難者を直接支援するボランティアの確保状況はどのようになっているか。	備蓄食糧は、アルファ米、缶入りパン、飲料水、ビスケットなどを約800食分備蓄しています。避難者の生活必需品は、備蓄計画に基づき、毛布やアルミシート、紙おむつ、ほ乳瓶などを拡充していきます。備蓄場所は、現在、上三川消防署及び役場倉庫に備蓄しており、今年度に購入する備蓄品は、上三川小学校体育館の備蓄倉庫に納入する予定です。ボランティアの確保状況は、131名の登録があり、そのうち33名が災害時の対応を希望していて、社会福祉協議会で随時受け付けています。
地域の消防設備等について	老朽化した格納箱や、格納されている備品、格納箱の更新計画と保守点検、操法等の訓練など、町の今後の方針はどうなっているか。	老朽化した格納箱及び備品等は、道路が狭く消防自動車が行きづらいような場所については、今後も更新していき、道路の道幅が広く、消防自動車が行きやすいような場所については、自治会の要望等を受け不要と判断されれば撤去していきます。万が一、火災が発生した場合は、上三川消防署や地元消防団へ、消防本部より出動命令が出されるため、消火活動への影響は少ないと考えています。
自治会の運営について	現在の自治会の役割が、町政に関する部分が多いため、個人の奉仕の範囲から大きく超えているように思われる。今後の、町の考え方を聞きたい。	平成28年度から自治会支援の1つとして、「自治会コンシェルジュ制度」を創り、各自治会に町の職員を3名配置させていただきました。現段階では、主に担当課等への電話の取次ぎ業務のみとなっております。将来的には、自治会支援の一助となるように、制度の充実を図っていききたいと考えています。
人口減少対策について	子育て支援、働く場所の確保、移住呼びかけ、起業支援などの対策を、何か考えているか。	人口減少対策は、子育て支援として、第3子以降の出産祝金や保育料減免、中学生卒業までの児童医療費助成などがあります。働く場所の確保として、地理的優位性を活かして新たな産業団地開発事業に取り組み、移住の呼びかけについては、定住支援として、空き家バンクの設置、住宅取得支援制度の創設を検討しています。起業支援として、創業支援事業計画の策定や、上三川町創業支援ネットワーク連絡会による連携を実施しています。

○平成29年度 町長と語る会の意見と回答

	意見	回答
少子化対策について	住宅団地も高齢化になってきている。工業団地、商業地、流通団地の積極的な誘致や、子育て世代への支援対策など、何か対策はあるか。	現在、企業を誘致できるような産業団地がないため、新産業団地開発事業を計画し、雇用創出を図りたいと考えています。また、子育て支援対策として、児童医療費の助成や第3子出産祝金など子育てしやすい町として、若い世代の移住・定住につなげていければと考えています。
かみたんメールの配信について	洪水警報情報を配信するとき、河川名や地域名など詳細な情報が欲しい。また、火災情報についても、メールで配信して欲しい。	気象警報は、気象庁が市町村を最小の区域と設定しており、また、洪水警報は、Jアラートと連携して配信しているため、システムの構造上、詳細な地域名等まで配信することができません。火災情報につきましては、配信できるように石橋地区消防組合と協議していく予定です。
指定廃棄物の今後について	県央浄化センターに一時保管されている放射性物質の、今後の保管状況と取り扱いはどうなるか。	指定廃棄物は、県で毎日、点検をして、周辺の放射能の数値を計り、厳重に管理しています。今後は、国による集約処理までの間、県において適切に管理することになっています。町でも、速やかに集約処理されるように、機会を捉えて国・県に伝えていきたいと考えています。
健康促進の事業について	町ぐるみで町民健康促進のため、町内早朝散歩大会を開催してみてもどうか。	「歩くこと」は、気軽にできる有酸素運動であり、生活習慣病・筋力低下の予防など多くの効果があるといわれています。正しいウォーキング方法を学ぶ「ヘルスアップウォーク」や、町民スポーツ・レクリエーション祭で、「いきいきウォーキング」、毎週土曜日には、いきいきウォークラリーを上三川いきいきプラザ外周で実施しておりますので、気軽にご参加いただきたいと思います。また、健康について、できるようなものについては取り入れていきたいと思っています。
イベントの開催方法について	町のイベントは、行こうとは思えるものがない。町外の人がたくさん来るようなイベントになるよう、盛り上げる内容にしてはどうか。	主催する団体などと協力し、町の魅力を知っていただき、一人でも多くの方に来ていただけるような内容に改善するなど、イベントの内容も含めた形で周知していきたいと考えていますので、ご意見等をお聞かせいただければと思います。また、夕顔サマーフェスティバルの流し踊りや、町おこし夏祭りの神輿、ふれあい市ではフリーマーケットやステージ発表も開催していますので、ぜひ、ご参加いただけたらと思います。
通学路の歩道拡幅について	小中学生の通学路で、通勤時間帯に車の通行量が多くなり危険となる箇所がある。歩道の拡幅はできないか。	現在、交通量が多いにもかかわらず、歩道が無い路線が多くあり、そちらを優先的に整備しているため、現時点では歩道を再整備し、拡幅する予定はありません。
道路の拡幅について	県道雀宮真岡線と新4号線との交差点から東側の区間は、一部分拡幅工事しているが、その後の工事予定はどうか。混雑緩和や自転車、歩行者の安全確保のためにも、早急に工事してもらえないか。	現在、県、宇都宮土木事務所で、道路用地確保のための交渉中であるとの話を聞いています。町も円滑で安全な道路交通を確保するため、県議会の県土整備委員会など関係機関等に対し、機会あるごとに要望しているところです。今後も、関係機関等に要望するなど、早期に安全・安心なまちづくりをできるよう努力していきたいと思っています。
空き家の対策について	空き家対策として、移住体験などにより、移住を奨励してみてもどうか。	町でも「空き家等対策の推進に関する条例」が施行され、現在、空き家の実態調査を行っています。空き家の所有者等の意向が確認でき次第、空き家の有効活用を考えていきます。移住体験は、永住する場所を決めるための有効な方法であると考えられるため、意向調査の結果、賃貸希望となった物件の有効活用施策の一つとして、検討していきたいと考えています。
小中学校への冷暖房の整備について	町内小中学校の普通教室へ、空調機の導入は考えているか。	小中学校の空調機の設置は、現在、工事に着手しており、平成30年3月に完成の予定です。各学校における空調機の導入は、普通教室及び特別教室において、平成30年度からの使用開始を予定しています。